

プロ野球開幕戦、東京ドーム観戦記

上原 昇（2組）

東京のソメイヨシノの開花宣言は3月24日で、昨年より5日早かったそうです。毎年この時期になると、プロ野球公式戦がスタートします。今年の開幕は3月28日（金）に、セ・パ両リーグ6試合が行われました。子供の頃から巨人ファンの筆者は3月30日（日）午後、開幕カード、巨人 vs ヤクルト戦を東京ドームで観戦しました。昨年の巨人は阿部新監督のもと、守りを主体とした堅実野球でセ・リーグを制しましたが、CS敗戦という苦い結果に終わりました。今季は菅野投手のメジャーへの移籍はあるものの、田中将大投手（楽天から背番号11）、マルチネス投手（中日から92）、甲斐拓也捕手（ソフトバンクから10）、キャベッジ外野手（パイレーツから13）を補強して、セの連覇、そして日本一を目指しています。28日（金）の開幕初戦、巨人は先発投手が早々に打たれて、5対0とリードされていますが、8回、キャベッジが本塁打、延長10回には昨年西武から移籍した若林楽人外野手がサヨナラ逆転タイムリーヒットと助っ人が大活躍しました。翌第2戦は打棒爆発と先発した赤星優志投手の好投で、12対0と大勝しました。観戦日の第3戦の巨人先発は新加入の石川達也投手（昨年横浜DeNAから移籍、背番号65）です。石川は打っても先制タイムリーヒットを放ち、5回を零封してプロ初勝利をあげました。ヤクルトは大黒柱の村上宗隆選手を欠いていることもあり迫力がなく、巨人に3連勝を許してしまいました。1塁側のスタンドで観戦していましたが、隣の席にスーパーで買って来たと思われるキャベツの玉をかざして応援している男性がいました。不思議な光景と見ていましたが、新加入のキャベッジ（Cabbage）選手のファンのような様子でした。キャベッジの活躍次第で、これから東京ドームで流行り出すかもしれません。ヤクルトで目立った選手に赤羽由紘二塁手がいます。松本市出身で5年となりますが、今季は開幕初戦からフル出場、3戦目も1番打者で2本のヒットを打って、今後の活躍が期待できる選手に成長しています。両チーム12人の投手を継投して4時間近いダラダラ試合となりましたが、スピードアップが今後のプロ野球の課題だと思います。ヤクルトの不振にも助けられ、最高の3連勝スタートを切った巨人を見届けて足取りも軽く家路につきました。<https://www.tokyo-np.co.jp/article/395286>

（2025年3月31日記）

以上